



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 石

◎石叫■

「聖地旅行」その⑥

四日目、ガリラヤ湖を去る日がやってきた。もうここを離れるのかと思うといたため、早朝、僕は誰もいない湖で一人泳いだ。風いだ湖が次第に明るさを増して来る中で、一人救い主に会いたくて、主の姿をどことなく追っていた。水の中にいるとほんのりと主の愛に包まれているようで、そこを去り難かったのである。ひとしきり泳いで湖の中に立った時だった。何となく足がくすぐつたのではないか。一体何がそうさせるのだろうかと思つてよく水の中を見ても、4〜5センチほどの小魚が両足に喰らいついている。僕の足がそんなに美味しいものかと思うほどに、小魚が群がっている。魚に好かれても仕方が無いが、今回の旅でも心に残るくすぐつたい思い出の一コマであった。

ガリラヤ湖での最後の訪問先は宿泊先のホテルのティベリアから半時間もしない湖の西岸にある「古代ガリラヤ舟」を保存している博物館だ。それはイエス様の時代に使われていたとされる代物である。この古代の木舟は早魃によってガリラヤ湖の水位が下がった翌年の一九八六年の一月に近隣のキブツに住む二人の兄弟によって発見されたものである。何せ二千年近くの間、水中にあったので、それを乾燥させて展示するために十四年の歳月を要した。小さな舟でありながら十二種類の木材で造られ、五人の乗組員が、帆もしくは一組のオールで航行し、漁や物資の運搬に用いられていたという。主もこのような舟に乗って弟子たちと伝道していたのであろうかと思うと、二千年前に引き戻されたようで、そこに主がおられるような臨場感があつたのは不思議であつた。

マタイ八章に、湖上に激しい暴風が起つて、舟は波にのまれそうになつた。ところが、イエスは眠つておられた。そこで弟子たちはみそばに寄つてきてイエスを起こし、「主よ、お助けください、わたしたちは死にそうです」(24〜25)と叫んだとある。ガリラヤ湖の漁師でも死にそうだと恐れるほどの暴風の中で、主だけは舟で眠っていた。そこで主が風と海とお叱りになると、大なぎになつた。弟子たちは暴風という恐怖に翻弄され、神への信頼を失っていたのだ。一方、主はその波間の向こうに父なる神の力強いみ手にご自身を委ねていたので平安だった。それが信仰なのだと言はれたのである。

この例のように、叫べばすぐに答えて下さる主イエスが、私たちの人生という小舟に同行してくださっているにも拘わらず、弟子たちのように、現実に翻弄されて主を見失っている自分がある。ああ、何と信仰の薄き者よ(続く)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

